

高岡市工業用水道事業の紹介

○事業の主旨

高岡市の工業用水道事業の給水区域は、飛騨山脈を源とする一級河川である庄川下流の扇状地の先端に位置し、伏木港と富山新港に近接している。

このように、港湾輸送に適する恵まれた立地条件を反映し、金属・機械・化学工業を中心に発展してきた工業地帯である。

近年は、東海北陸自動車道や能越自動車道の交通網整備が急ピッチに進められていることや、伏木外港の開発拡張事業施工等、物流の拠点としての役割を果たす重要な地域として期待されている。

○事業の経緯

高岡市の工業用水道は、庄川河川敷堤防横の牧野新用水の農業用水余剰水を利用し、工業用水として昭和29年に鉄鋼業へ10,000 (m³/日) 供給を開始したのが最初である。そして、昭和32年の臨時議会において「高岡市工業用水道事業会計の設置について」の議案提出と可決を受け、水道事業会計に移管され、市工業用水道事業として発足することとなった。

農業用灌漑用水は灌漑期において水不足をきたし毎年、用水管理者側と供給先との間でトラブルが絶えないことから、抜本的な善後策が必要となった。そして、工場の設備増設計画と水需要の増加に対応するための改善策として、水源を牧野新用水から庄川表流水へと転換を図り、昭和38年と昭和39年の2ヵ年で第1期拡張事業を実施した。その後、経済成長の伸びと共に再び給水量の増加要望があったことや、金属加工業へ新規供給するため、昭和45年に第2期拡張事業として取水設備の拡充強化と併せ、配水管布設の増設工事が行なわれ、翌昭和46年に完成した。

昭和48年から昭和56年までは高度経済成長に支えられ、総給水量が63,100 (m³/日) とピークであったが、その後は減少に転じている。

設備の拡張時代から維持管理時代を迎え、昭和59年には遠方監視装置の稼働、平成3年から老朽

管の布設替えを行ない現在に至っている。

○ユーザーの概要

(平成18年3月末現在)

業種	給水件数	契約水量 (m ³ /日)
化学	1	3,000
鉄鋼	1	18,200
金属	1	2,770
合計	3	23,970

○工業用水道施設の概要

庄川の表流水を左岸取水口で取り入れ、樋管を経て石瀬ポンプ場々内の着水井へ導水している。着水井からは口径φ300mm、揚程20mの水中モーターポンプを使用して供給先へ給水している。水中モーターポンプは5台(常用4台予備1台)設置されているが、現在は給水量の減少により、常時2台の稼働となっており、ローテーション運転を行っている。創設当初の配水管は石綿セメント管であったが、老朽化が進んだため平成3年度から、順次ダクタイル鋳鉄管に布設替工事を実施し、平成9年度に全線工事が完了した。口径は、φ200mmからφ900mmで布設総延長は約4.6kmである。

○事業の特徴

高岡市における工業用水の使用用途は、主に電気炉冷却用であること、また、水源の庄川表流水は年間を通じて質・量共に常に安定し良好なため、関係会社了解のもと水質については協定せず、取水原水を浄水処理することなくそのまま供給先へ給水している。

低廉で豊富な水量を誇りとする当工業用水道事業ではあるが、事業としては小規模であるため経済動向や景気変動により、大きく供給契約水量が左右される。

○高岡市水道局のホームページアドレス

<http://www.city.takaoka.toyama.jp/suidou/>

○高岡市工業用水道事業概要図

